

“技術士を目指し、共に迷い、共に歩み、報われる努力！”

第16期 PE 道場受講者の募集

技術者の技術力向上を目的に、PE（Professional Engineer 技術士）道場を平成18年度から実施し、その結果として、PE道場から**38名（うち第14期は5名の合格者）**の技術士を輩出することができました。

この受験講座は、技術士第二次試験の合格を**本気で**目指す技術者（建設会社、コンサルタント、公務員、年齢等は問いません。）を支援するために開講します。

<試験制度の概要> ※2019年より試験の方法が変わりました。下の表のとおりです。

<筆記試験(総合技術監理部門を除く技術部門)>

試験科目	改正前 <~平成30年度>				改正後 <平成31(2019)年度~>			
	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	「技術部門」全般にわたる専門知識	択一式 20問出題 15問解答	1時間 30分	30点	「技術部門」全般にわたる専門知識、応用能力、問題解決能力及び課題遂行能力に関するもの	記述式 出題数は2問程度 600字詰用紙3枚以内	2時間	40点
選択科目	「選択科目」に関する専門知識及び応用能力	記述式 出題数は回答数の2倍程度 600字詰用紙4枚以内	2時間	40点	「選択科目」についての専門知識及び応用能力に関するもの	記述式 出題数は回答数の2倍程度 600字詰用紙3枚以内	3時間	30点
	「選択科目」に関する課題解決能力	記述式 出題数は2問程度 600字詰用紙3枚以内	2時間	40点	「選択科目」についての問題解決能力及び課題遂行能力に関するもの	記述式 出題数は2問程度 600字詰用紙3枚以内	30分 ※選択科目の試験に 休憩時間はありませ ません。	30点

※総合技術監理部門については変更無し

主催：NPO 法人技術交流フォーラム

資格：技術士第二次試験受験資格を有するもの
 （一次試験合格者で資格要件に該当する実務経験を有する者）
 “必ず合格してやる！”という思いを有するもの

内 容 : 『総合技術監理部門を除く技術部門』を対象とし、以下の項目を実施します。

- ◆ オリエンテーション、経歴書の書き方、国土交通白書の見方
- ◆ 論文の書き方の基本、選択科目対策（論文作成とグループ討議）
 - ・実施予定期間は、12月～翌年7月までです。
 - ・受講者が決まり次第、12月にオリエンテーションを実施し、6月に模擬試験を行います。
 - ・論文添削指導は、グループ討議の他に、担当講師や受講生間とのメールなどにより、講師と受講生が納得のいくまで繰り返し実施する方法です。（添削回数：無制限）
- ◆ 受講生に沿った支援（2コース）をご用意しました。
 - ・Aコース（受験回数が複数回）：毎月1回（第2土曜日）、計9回
 - ・Bコース（未経験者、希望者）：毎月2回（第2・4土曜日）、計14回※別紙1「PE道場タイムスケジュール（案）」を参照して下さい。

指導者 : 技術士保有者から適宜依頼し、指導方針についての協議のうえ選定しております。

勉強日 : 土曜日（10：00～16：00）を想定しております。
詳細は、オリエンテーション時にご説明いたします。

場 所 : 基本的には、佐賀市内です。（都合により、毎回同じ会場でないこともあります。）

受講費 :

- ◆ Aコース（受験回数が複数回）：5万円（NPO法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：3万円）
- ◆ Bコース（未経験者、希望者）：7万円（NPO法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：4万円）

応 募 : 希望者は、11月24日(月) 17：00までに、下記の連絡先にメールして下さい。
必要書類を返信します。

連絡先：研修委員長 福岡 仁 メール : fukuoka@sinwa-consultant.jp Tel : 0952-32-1348 、 Fax : 0952-36-6681 (株)親和コンサルタント 佐賀市卸本町7番25号
--

応募時に、別紙3「提出課題について」に対する小論文（1,200文字以内）を提出していただきます。提出を求める理由は、受講生の現状を講師陣が把握するためであり、円滑な支援を行うための基礎資料と活用します。

なお、その結果から個別に受講コースなどの相談をさせていただくことがあります。

P E 道場タイムスケジュール (案)

別表-1.1 予定表 (オリエンテーション～筆記試験まで)

	試験スケジュール	A コース	B コース
12月		オリエンテーション (12/5) 第1回 (12/19) ✚ 論文の書き方 (文章作法、骨子法など) ✚ 講師との経歴について議論 (経歴書の書き方、経歴の棚卸し) など	
1月		第2回 (1/9) ✚ 経験論文に関する内容討議 ✚ 過去問題の傾向分析と勉強方法の確認	
			第2'回 (1/16) ✚ 経験論文に関する内容討議 ✚ 論文の書き方 (文章作法など)
2月		第3回 (2/13) ✚ 発想法 (マインドマップ、KJ法) の習得 ✚ 専門 (基礎、応用) ① グループ討議	
			第3'回 (2/27) ✚ 専門 (基礎、応用) ② グループ討議 ✚ 発想法の実践
3月		第4回 (3/13) ✚ 必須① グループ討議	
			第4'回 (3/27) ✚ 必須② ✚ 経験論文の最終チェック
4月	【受験申込書配布期間】 4月1日～24日 【受験申込受付期間】 4月8日～24日	第5回 (4/10) ✚ 専門 (課題解決) ① グループ討議 ・・・論文の添削を踏まえたグループ討議および指導	
			第5'回 (4/24) ✚ 専門 (課題解決) ② ✚
5月		第6回 (5/8) ✚ 必須および専門 (課題解決) ② グループ討議 ・・・論文の添削を踏まえたグループ討議および指導	
			第6'回 (5/22) ✚ 必須および専門 (課題解決) ③ ✚ 論文構成の再チェック
6月		第7回 (6/12) ✚ 模擬試験 (筆記試験) ※本番と同じ時間割での想定問題を実施	
		第8回 (6/26) ✚ 模擬試験に対するグループ討議 ✚ 試験当日まで2週間の過ごし方	
7月	【筆記試験】 7月11日 (予想)	< 復元論文の作成 >	

PE道場タイムスケジュール（案）

別表-1.2 予定表（筆記試験～口頭試験まで）

	試験スケジュール	A コース	B コース
7月	【筆記試験】 7月11日（予想）	<復元論文の作成>	
8月		<解答した論文の再考>	
9月			
10月	筆記試験合格発表		
11月		模擬試験（口頭試験）：合格者対象 📌 想定問答作成支援 📌 個別の模擬面接試験（2回）	
12月	口頭試験	<質疑の情報共有>	

※記載内容は予定であり、受講生のレベルや人数などにより、変更の可能性があります。

※添削指導は、PE道場開始と同時に随時実施します。

※受講者は、筆記試験の結果を報告していただきます。また、二次試験合格者の方には合格体験記を提出していただきます。

PE 道場受講者 合格体験記

【佐賀県内の建設コンサルタント技術者 Nさん (43歳)】(平成30年度合格)

技術士以外の資格をあらかじめ取得し、最終目標であった技術士取得を目指して独学で勉強していましたが、2年連続で不合格という結果でした。そのため、勉強のやり方が根本的に間違っているのではと考え、PE道場を受講することにしました。

PE道場では、実務経験豊富な講師陣より熱心にご指導していただき、文章構成の指導、最新の技術・試験情報の提供、論文の添削などを受けることができました。講師陣のご指導を受けたことで、論文構成の稚拙さや知識量の少なさが分かり勉強方法を根本的な部分から見直すことができました。残念ながら受講した年度では合格することができませんでしたが、次年度で無事合格することができ、PE道場を受講していなければ技術士を取得することは困難であったと思います。

ご指導して頂いたすべての方々に感謝するとともに、ご指導頂いたことを実務に生かせるよう日々、研鑽していきたいと考えています。

技術士試験の勉強方法で悩んでいる方はPE道場の受講をお勧めします。

【佐賀県内の建設コンサルタント技術者 Yさん (40歳)】(平成30年度合格)

はじめは二次試験の受験勉強を独学でやっていたが、仕事を理由にあまり勉強しなかったこともあり当然の不合格だった。その後、上司からの勧めもありPE道場で指導を受けることを決め、受講した年には論文の評価で合格点をもらうことができた。

道場では、様々な分野の技術士が講師として参加されているため、自分の専門分野だけではなく多角的な意見を頂くことができ、他の受験者と差をつけることができます。また、道場を通じてお世話になった方々とは、今でも日頃の業務等で様々な情報交換を行うことができ、試験勉強だけでなく技術者としても参加してよかったと思っています。もし参加を悩まれている方がいるなら、一度参加してみることをおすすめします。

【長崎県内の建設コンサルタント技術者 Nさん (47歳)】(令和元年度合格)

業務に必要な資格 地質調査技士、地すべり防止工事士、RCCMと段階的に取得し、技術士試験に挑むことになりました。(かなり前ですが・・・)

8年前から受験を開始し、初めての受験は一般問題が択一になる前の最後の出題形式の時でした。この時は、独学(ネットの受験情報など利用)のみで受験し、「それなりに書けたかな」くらいの感覚でしたが、結果は不合格。それなりに書けたと思ったのは、今考えると完全な思い違いで、この「根拠のない自信」がその後の受験連続失敗の原因だと思います。

その後は、毎年、受験申込をするものの、あまり勉強もせず、とりあえず受験にいくと状況。技術士受験が、なんとなく「年中行事」的な感じとなっていました。受験にも行かない、行っても午前中で諦めて試験途中で帰ることもありました。

試験勉強もしないまま受験を続け、数年が立ち、自分の年齢(この時すでに47歳)、会社での立場を考え

た時に、「こんな状況ではまずい。」と思うようになりました。その時に、会社の先輩から PE 道場を紹介され、平成 30 年度受験から PE 道場に参加させて頂きました。初めて参加し、指導を受けた時に、申込書(経歴や業務詳述)の書き方から「目からうろこ」の状態となります。過去の申し込みは、とりあえず「受験資格はあります。」的な感覚で申込をしていたことに気づきます。自分のダメなところに気づき(以前からダメとは感じていましたが・・・)、せっかく PE 道場に参加し、多くの講師陣からの指導を頂けるのだから、何としても合格したいとモチベーションがアップしてきました。今まで、過去問を真剣に回答することなどありませんでしたが、PE 道場に通い、講師の皆様から論文添削を受けることで、いろいろな考え方や、論文構成について学ぶことができました。また、同じ受講生の論文も、読み合わせを行い、意見を交わすことで、多くのことを参考にさせて頂きました。

昨年度(平成 30 年度)は、絶対に合格するという意気込みで受験しましたが、結果は択一で足切り(1 問不足)。過去の択一問題を何度も繰り返して勉強し、失敗することはないと思っていました。実際の受験の時は、択一問題が予想以上に難しく感じました。午後の記述は、重い気分のまま挑みましたが、勉強した通りの問題であったため、それなりに記載ができたと考えていました。しかしながら、択一で足切りとなったため、評価してもらえません。論文の評価が判らないのは非常に残念でした。筆記試験が終わってからは、しばらくは技術士受験のことは考えず、ひたすら業務に打ち込む日々を過ごし、2 月ごろに、次回の技術士受験のこと考え始めました。前回、PE 道場に参加したことで、勉強方法はわかってきたし、次は、自学で受験しようかとも思いました。しかし、自分の性格は、「己に甘い。すぐ、楽な方を選ぶ。」ことを自分自身が一番わかっています。道場に参加しないと、論文の添削が受けられないことや、以前のように勉強しない日々が続くと思い、令和元年度も参加することを決意しました。

令和元年度、最初の勉強会で講師の皆さんや、前回、同じように涙をのんだ同志と再会。熱心に指導していただいたにもかかわらず、不合格となり「申し訳ない。」「今年もよろしくお願ひします。」という気持ちになり、「今年こそは合格するぞ。」と少し燃え始めます。令和元年度も前回同様、講師の皆様からの添削、情報提供、受講生の論文など非常に勉強になりました。また、自宅での学習も、休日はほぼ「引きこもり」状態です。PE 道場に参加した 2 カ年、ゴールデンウィーク中はひたすら論文作成に勤しみ、「GW の思い出」など一切ない状況(そんな年齢でもないんですが・・・)。PE 道場に参加する前の自分では、まったく考えられない取り組みです。

自分では、やり切った気持ち?で、いざ筆記受験。試験制度が変わったこともあり、問題Ⅱ-2、問題Ⅲでややつまづくも何とか記述が終了。このとき、昨年記述の方がよく書けた気がし、不安になります。なんとなく、「今年もダメかな。」と思っていました。ネガティブな性格なもので、受験後は、豪雨災害対応業務に追われ、論文をきちんと復元していませんでした(キーワードや記載した流れだけを記録)。筆記試験合格発表の時は、あまり期待感も無く、入社後、しばらくしてから受験番号を確認しました。筆記合格を確認したときは、うれしい気持ちよりも、「口頭試験」への焦りと緊張が上回っていました。論文の復元をきちんとしていなかったからです。その後、業務の合間に論文の復元し、PE 道場の模擬口頭試験に挑みました。模擬試験とは言え、初めてのことでかなりの緊張。2 回の模擬口頭試験を実施していただき、口頭試験の雰囲気をつかんだところで、いざ本番へ。

口頭試験は、数日前から緊張が高まり、本番直前は緊張マックス。さらに、模擬口頭とは、確認事項の傾向が違っていたため、かなり焦ってしまいました。ただ、「わかりません。」だけは禁句とし、ひたすら思い

付きで何とか受け答えしました。終わった後は、脱力感でいっぱいです。それから、合格発表までまた緊張が続きます。発表前日は、まるで口頭試験直前の気分です。合格発表で自分の受験番号を確認したときは、緊張から解き放たれ、ほっとした気分になりました。筆記試験も口頭試験も、あまり手ごたえを感じていなかったのですが、努力を続ければ、いつか結果につながると実感できました。

独学ではなく、講師の皆様にご指導いただき、また、同じ志を持つ受講生と共に勉強することは、非常に重要だと感じました。特に、自分より若い講師の方からのアドバイスは、「若いのにすごい。」と非常に刺激となり、自分も追いつきたいという気持ちがモチベーションの向上に大きくつながりました。

2カ年にわたり、熱心にご指導頂きました講師の皆様、共に勉強させていただきました同期受講生に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

独学での勉強に不安がある方、勉強方法がわからない受験生は、PE道場に参加してはいかがでしょうか。私は、もっと早くPE道場に参加しておけばよかったと思いました。

提出論文の課題について

【課 題】

あなたが今まで経験した業務の中から 1 つを選び、技術士の視点から以下の内容について、記述せよ。

技術士の視点とは、「様々な問題のなかから業務を履行するためのボトルネックを見つけ出し、リスク管理をしつつ、課題を解決する。」という課題解決能力のことである。なお、選択する業務は、「計画、研究、設計、分析、試験、評価（補助的業務を除く。）または、これらに関する指導」のいずれかに該当し、主体的に実施した業務とすること。

解答は、600 字（24 字×25 字）用紙 2 枚までとする。

- (1) 業務におけるあなたの立場と役割を説明せよ。
- (2) (1) で挙げた業務に対して、技術的な内容を説明せよ。ただし、必ず課題と問題点を明記すること。
- (3) (2) で記述した問題に対して実施した複数の技術的な提案を挙げ、あなたの考えとともに説明せよ。
- (4) (3) で説明した解決策による成果を説明せよ。

(以 上)

【注】

- 様式は、NPO 法人 技術交流フォーラムからダウンロードして入手すること。
- 提出する論文は、手書きを基本とする。（ただし、やむを得ない場合、ワープロでも可とする。）
- 解答用紙の 1 枚目には、氏名、受験回数、技術部門、選択科目、専門とする事項を必ず記述すること。
- 上記の課題に対する質問は、受け付けない。